

ぼうさいこくたい2019

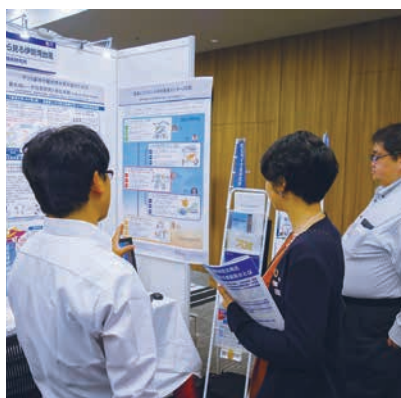
10月19日（土）～20日（日）にかけて、名古屋コンベンションホールにおいて「ぼうさいこくたい2019」が開催されました。防災科研は講演とブース展示を行いました。19日には林春男理事長が「防災教育交流会」のセッションに登壇しました。「大規模災害に備える～まなぶ・つながる・つよくなる『防災を、もっと日常に』」をテーマにお話しされました。

ブース展示では、19日は国家レジリエンス研究推進センターが「線状降水帯対策最前線」をテーマに、20日は自然災害情報室が「空から見る伊勢湾台風」をテーマに展示を行いました。

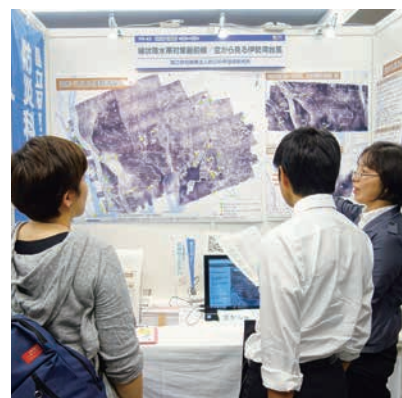
イベント全体で約15000人が来場するなど、セッション、ブースともに多くの方にご覧いただき、防災科研の取り組みを紹介することができました。



講演の様子



19日「線状降水帯対策最前線」の様子



20日「空から見る伊勢湾台風」の様子

SIPワークショップ開催

10月24日（木）、イイノホール（東京都千代田区）において、内閣府と防災科研共催のSIPワークショップ2019「国家レジリエンス（防災・減災）の強化：防災先進技術を自治体に～国と自治体の有機的な繋がり～」を開催しました。

当日は、自治体が求める防災技術とは何か、これからの防災に必要とされるものは何かについて、パネルディスカッションを行いました。堀宗朗プログラム

ディレクターが進行役を務め、研究開発者・自治体首長・医療関係者・ジャーナリスト等がパネリストとして登壇し、災害大国・日本にとって欠くことのできない課題や、防災先進技術について、活発な議論を交わしました。

関係省庁や自治体、企業、研究機関等から多くの方々に来場いただいたほか、YouTubeを用いたライブ配信に全国からアクセスいただき、好評裏に閉幕しました。



会場の様子



パネルディスカッションの様子

第10回日本ジオパーク全国大会 2019 おおいた大会

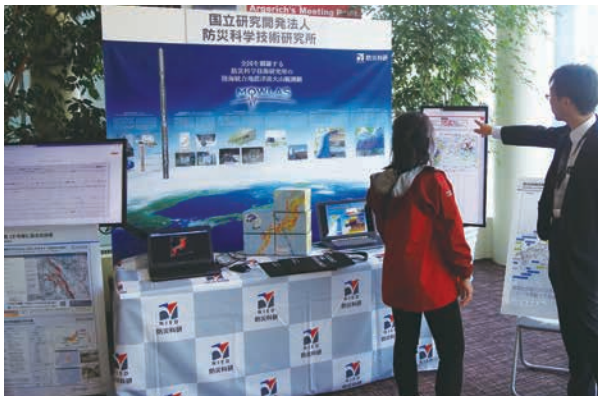
10月31日（木）～11月5日（火）にかけて、第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会が開催されました。

防災科研では、11月2日（土）大会会場（iichiko総合文化センター）にブース出展し、Hi-netの準リアルタイム波形や「防災科研 地震だねっと!」の糸魚川、三陸、男鹿半島・大潟、八峰白神、四国西予の各ジオパーク周

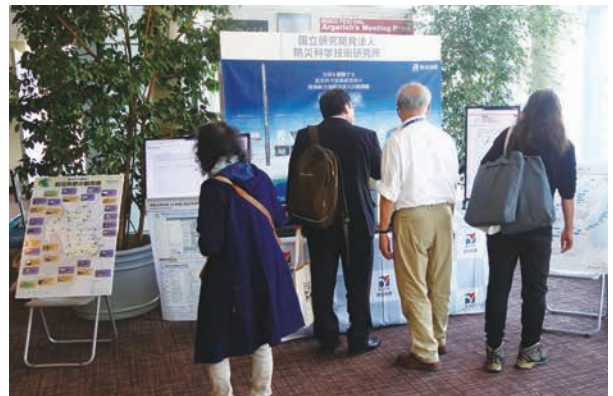
辺の地震の発生状況などをディスプレイに表示し、それぞれのジオパーク関係者はもとより、他のジオパークの方々にも興味を持っていただくことができました。

昨年同様にも多くの方々に防災科研ブースへお立ち寄りいただきました。

地元から御来場の皆様にも関心をお寄せいただき、盛況のうちに終えることが出来ました。



防災科研ブースの様子



多くのお客様が立ち寄りくださいました

サイエンスアゴラ

11月15日（金）～17日（日）にかけて、「サイエンスアゴラ」が開催されました。防災科研は16日～17日にテレコムセンタービルのブースに国立研究開発法人協議会として出展し、展示を行いました。

各国立研究開発法人がSDGs目標に対応する展示を行う中で、防災科研では研究所の紹介に加えて、

SDGs目標11の「防災」をテーマにバーチャルリアリティを用いて高潮時の浸水を体験していただきました。

来場者は家族連れから専門家まで幅広く、イベント全体で5000人を超える来場者となるなど、多くの方々に防災科研の取り組みを紹介することができました。



VR体験の様子



防災科研ブース説明の様子

日本自然災害学会 第38回学術講演会発表優秀賞を受賞

令和元年9月21日～22日に釧路市生涯学習センターで開催された第38回日本自然災害学会学術講演会で、マルチハザードリスク評価研究部門の土肥裕史特別研究員が令和元年度学術発表優秀賞を受賞しました。



◀詳しくはHPをご覧ください。



共著者の関西大学・奥村与志弘 准教授（左）と土肥裕史特別研究員（右）

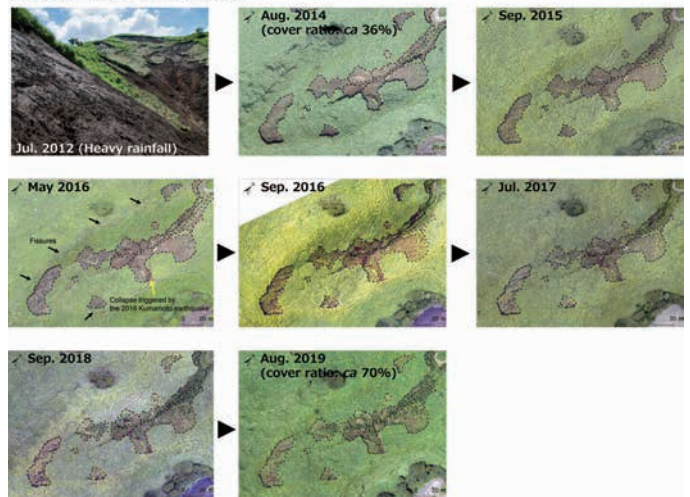
CSIS DAYS 2019において 「優秀共同研究発表賞」を受賞

CSIS DAYS 2019において、「多時期のドローン調査に基づく斜面崩壊地と植生回復モニタリング」内山庄一郎（防災科学技術研究所）、齋藤仁（関東学院大／CSIS）が、「優秀共同研究発表賞」を受賞しました。



◀詳しくはHPをご覧ください。

2012年～2019年の植生回復



斜面崩壊地の植生の変化